

令和 7 年度事業計画書

(2025 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日)

I. 事業計画概要

石洞美術館は 2006 年 4 月に設立され、20 年近く経過しました。その為、展示ケースの内装クロスの変色が目立ち始め、蛍光灯は製造中止になり LED に変えなければならない時期でもあります。

そこで 7 月から 10 月までは美術館を休館致します。7 月に工事を開始し、内装工事と電気工事、約一ヵ月で完了すると思います。しかし内装クロス張替のシーズニング期間が 3 カ月間必要と言われているので、11 月から展覧会を再開したいと思います。

令和 7 年度中に美術館の水害対策工事も実施する計画です。

助成事業は 6 月に募集開始し、10 月に選考委員会開催し、令和 8 年の助成金の授与者を選考します。また、表彰事業の淡水翁賞の募集は 9 月に開始し令和 8 年 1 月に選考委員会開催、3 月に表彰式を実施致します。

II. 事業毎の計画

1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

(1) 石洞美術館

a. 展示計画

「イスラーム陶器展」 1 月 17 日金曜日～4 月 13 日日曜日

西アジア、中央アジア、エジプト、北アフリカを中心とするイスラーム圏で焼かれた施釉陶器であるイスラーム陶器は、中国の陶磁器にも比肩する程の内容と規模を持った陶磁器群です。当館が所蔵する約 40 点のイスラーム陶器と、その制作の中心地である西アジアで作られたさまざまな工芸品を展示します。

「第 53 回伝統工芸日本金工展」 5 月 24 日土曜日～6 月 22 日日曜日

平成 24 年より石洞美術館で開催しており、本年度で 53 回を数えます。昨年度は公益社団法人日本工芸会の総裁でおられる佳子内親王殿下も来館されました。金属工芸品の未発表作品を全国から公募し入選作品を展示します。

「東南アジアの工芸展」 10 月 25 日土曜日～12 月 21 日日曜日

東南アジアの陶磁器は、器面に描かれた動植物の生き生きとした様子に独

特の魅力があります。当館は東南アジアの陶磁器を 70 件余り所蔵しております。それらを展示する事によって、生きものへの温かい眼差しを感じて頂ければ幸いです。

b. 地域との連携活動

石洞美術館での金工展開催中に講師を招き、展示作品の解説を行います。
また、足立区内の小、中学生には招待券を配布いたします。
公益財団法人足立区生涯学習振興公社と共催で、石洞美術館でのコンサート・イン・ミュージアムも検討中です。

c. 広報活動

美術館・博物館共通割引入場券「ぐるっとパス」に参加し、美術館・博物館に興味を持っている人が来館するきっかけにします。

「ぐるっとパス」に参加の都内近郊の美術館・博物館は 103 カ所あります。

d. 資料の収集

魅力ある展示を行って行く為、資料収集方針にしたがって、資料収集を行います。

2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する助成及び表彰事業

(1) 助成事業

令和 8 年度助成金は令和 7 年 6 月 20 日より募集を開始し、10 月に助成選考委員会を開催し、選考を行う予定です。

令和 6 年度は 6 件の応募があり、下記 2 件の調査研究が選考され、助成を行いました。

a. 松本卓己 「英国に現存する中国漆器の調査」 助成金額 61 万円

b. 曾和英子 「中国ヤオ族の織物の染織技術と文化の現代的継承」

助成金額 80 万円

(2) 表彰事業

淡水翁賞（若手金属芸術作家奨励賞）

若手金属芸術作家奨励のための淡水翁賞は、令和 7 年度で 41 回目を迎えます。第 41 回淡水翁賞の募集は 9 月頃に開始し、12 月 20 日をもって締め切りとし選考の上、3 月に授賞式を行う予定です。

前回は 11 件の応募があり選考の結果、平戸亜海さん、金孝眞さん、松本育祥さんが受賞され、令和 6 年 3 月に表彰式が行なわれました。